

## 小児看護学技術修得のための自己学習用視聴覚 教材製作研究(第三報) —事前事後アンケートによる教材の評価—

新潟医療福祉大学 看護学科 松井由美子  
坪川麻樹子  
中村郷子  
e-ラーニング推進室 内山 渉

### 【背景】

看護技術能力向上をはかるためのより実践につながる技術の修得は最優先課題とされている。看護基礎教育で修得できる看護技術には限界があり、卒後の臨床現場で求められるものとのギャップを埋めることは容易ではない。平成21年度の新カリキュラムでは演習の強化が求められ平成23年度の改定カリキュラムにおいても引き続き教育内容に盛り込まれた。小児看護学演習においても内容の充実化に努めているが、小児を対象とする技術はより難度が高く市販のDVDでは内容も不十分で実用的ではなかった。独自で作成することにより必要な内容を盛り込み、学生が何度も繰り返し視聴でき、映像の拡大やスロー再生を行うことで十分な事前学習を可能にできると考えた。本研究ではe-ラーニング推進室の協力を得て作成したDVDについて使用前後のアンケート調査を行い、学生の技術力を高めるための教材の効果と課題を明らかにした。

### 【方法】

研究対象：小児看護学演習の授業を履修し実習前に作成したDVD教材を使用したA大学看護学科3年生86名  
調査期間：平成22年9月(DVD使用前)と平成23年2月(DVD使用后)の各1週間(実習期間は後期9月～2月)

調査方法：質問紙留置き法

アンケートの項目は作成した「バイタルサイン測定」「身体計測法・診察介助」「全身清拭」の各技術について15項目ずつ質問項目を作成し5段階(5:強く思う～1:全く思わない)で回答を得た。

分析方法：DVD使用前後のデータについてWilcoxon符合順位検定を行い $p<0.05$ ,  $p<0.01$ を有意確率とした。

倫理的配慮：学生には研究の目的・方法を文書で説明し同意書の提出を得て研究に使用した。研究はA大学倫理委員会の承認を得た。

### 【結果】

アンケートの回収は実習前77部(回収率89.5%)、実習後64部(回収率74.4%)であった。

「バイタルサイン測定」では15項目のうち9項目( $p<0.01$ )、3項目( $p<0.05$ )で有意にDVD使用後に評価が高くなっていた。

「身体計測法・診察介助」では15項目のうち1項目( $p<0.01$ )、1項目( $p<0.05$ )の計2項目のみ有意にDVD使用後に評価が高くなったが、両方とも診察介助に関する項目で、身体計測法についての項目には評価の上昇は見られなかった。

「全身清拭」については15項目のうち12項目( $p<0.01$ )が有意に評価の上昇がみられた。

ビデオ教材の視聴回数は「バイタルサイン測定」 $1.33\pm 0.78$ 、「身体計測法・診察介助」 $1.14\pm 0.53$ 、「全身清拭」 $1.11\pm 0.63$ 回でバイタルサインが一番多く、2回以上見た人は少なかった。未視聴の学生もそれぞれ4～5名いた。DVD教材の内容についての評価は5段階評価(5:強く思う～1:全く思わない)で平均値は、「使いやすい」 $4.16\pm 0.73$ 、「わかりやすい」 $4.28\pm 0.69$ 、「興味・関心をひく」 $4.05\pm 0.78$ 、「役立つ」 $4.11\pm 0.82$ 、「適切な長さ」 $4.13\pm 0.70$ 、「聞きやすい」 $4.15\pm 0.75$ 、「臨場感がある」 $3.80\pm 0.83$ 、「活用したい」 $4.15\pm 0.79$ で、臨場感以外はすべて4.0以上の高い評価であった。

### 【考察】

3つの技術項目の結果のうち「身体計測法・診察介助」の項目にほとんど有意な評価の上昇シフトがなかったことは実習であまり経験できなかったことが影響していると考えられる。すべての項目について実習による影響が考えられ、直接にDVDの効果判定する指標にはならなかった。しかしDVD教材の内容に関する5段階評価の評価結果からは直接DVDが概ね効果的であったことが示されている。

今回のDVDでは学生が実際に実習で行うことをイメージできるように先輩の学生に看護師役を演じさせ、一部であるが実際の母親と子どもが登場する場面も挿入し臨場感が得られるような場面設定を工夫した。しかしほとんどが人形を使ったケア場面であったので、実際に起こりうる予期せぬ反応への対応がみられるような場面作りなどが課題となった。佐居らは看護学生の学習適応困難度の増加に対し、看護大学入学時から患者受け持ち実習終了までのWeb教材を開発しは実習棟の協力を得て実際の実習場面に撮影し導入している<sup>1)</sup>。実際の実習場所を事前にDVDで見ておくことで、実習に対する不安はかなり軽減されると考えられる。また、相原らは学生が動画教材に求める視点について調査を行い、パソコンや携帯電話などを用いたインターネット環境など学生の学習環境に応じた教材開発の必要性を述べている<sup>2)</sup>。今回は学生全員にDVDを貸し出し自己学習を促したが、一度も見えていない学生もおり事前の学習環境の把握や調整も必要と感じた。

### 【結論】

1. 技術項目による評価は、実習の影響も考えられ効果が不明確であったが「身体計測法」以外は評価が上昇した。
2. DVD教材の内容に関する評価は高い評価結果が得られたが臨場感に関しては課題が残り工夫が求められる。

### 【文献】

- 1) 佐居由美他. 看護学導入期の学生の困難性に対応したWeb教材の開発. 聖路加看護学会誌. 2011;15(1):17-26.
- 2) 相原ひろみ他. 基礎看護技術の動画教材の開発—学生が動画教材に求める視点および生活環境の実態. 愛媛県立医療技術大学紀要. 2009;6(1):49-55.  
(平成22年度新潟医療福祉大学研究奨励金萌芽研究である)